

## 「富山県警察の機能強化を考える懇話会（第3回）」開催結果

### 1 開催日時

令和2年12月25日（金）午前10時から午前11時30分までの間

### 2 開催場所

富山市蜷川123番地1

富山南警察署

### 3 出席者

#### (1) 懇話会委員（7名）

高木繁雄委員、尾畑納子委員、野口教子委員、島谷武志委員、瀬川信子委員

小原幸夫委員、夏野元志委員

#### (2) 県警察

警察本部長、警務部長、警務部首席参事官 外

### 4 警察署視察

受付窓口、執務室、相談室、武道場等を視察

### 5 議題等

前回までの課題を確認し、県警察から「近県の状況」や「県内警察署の課題」について説明した。

### 6 意見

- ・ ハードの体制についても、多様な市民のニーズや様々な事案に対処していく上で大切であると感じた。
- ・ 小規模警察署の場合、現場到着までの初動は早いかもしれないが、実際の捜査や検挙に至るまでの期間は、人員が少ないためロスが出ることを考えると、ある程度の統廃合は避けては通れないだろう。統合した後の庁舎の活用については、近隣住民の理解をしっかりと得ていくことが必要である。
- ・ 全国的な警察署の設備について、お聞きしたい。
- ・ 犯罪検挙、犯罪を未然に防ぐことが警察の大きな役割であるが、そのためには、ハード面はもちろん、ソフト面の中身の強化、例えば ICT を効果的に導入している外部機関の活用方法を取り入れていくことも大切であり、さらに、警察官一人一人がそれらを効果的・適切に活用できるようにすることが重要である。
- ・ 犯罪が起きると、警察官だけでは検挙することが出来ない場合もあるので、地域住民や関係機関からの情報提供など連携強化が必要である。犯罪に至る可能性のあることは、事前に見つけることが大切であり、些細な事でも地域住民から察知するとか、警察からも情報を配信してもらうことが重要だと思う。
- ・ 上市警察署に山岳警備隊が配置されているように、地域の特性に応じた取組を強化していけばよいと思う。

- ・ 新庁舎の建替えや統合を進めていく上で、全国平均みたいなものが分かると進みやすいと思う。
- ・ 新しい時代にあった機能を備えた環境整備は、働く人の確保、人材の確保に繋がることから、今後も必要であると感じた。
- ・ 富山県はコンパクトでありながら、それぞれのところに警察署があることがわかったが、この後の時代を踏まえると、人口減だけでなく税金収入の問題もあり、機能性のある集約された形にしていくべきだと思う。地域は自助・共助の精神で協力しながら、統合された庁舎については住民と密着した使い方をしていく、一方、高機能のものについては集約した統合庁舎で行っていくなど、きちんと分けていくのがよい。
- ・ 公的な役割と住民が連携していくという役割、とにかく犯罪が起きない、起きてもすぐに解決できる環境を整えていく最大の方向性を見出してほしい。方針を決めた後は、県民ができるだけ満足するような進め方をしてもらいたい。
- ・ 統合による初動の5分の遅れによって失われるもの、デメリットについて、お聞きしたい。
- ・ 県全体として地域差や特性があると思うので、それに合った人員配置をまず考えた上で、統合による捻出人員の再配置がなされるべきと思う。
- ・ 富山県の人口減少は全国と比べても急激に進んでいくというデータもあるので、例えば、10年後のある程度のシミュレーションをするなど、先を見据えた計画が必要である。
- ・ 新しい富山南警察署は位置的に富山市中心部の方に移ったが、中心部の犯罪が多いので妥当だと思うが、統合により、こういったデメリットが予想されるのか、また、それにどう対応してメリットに変えていくのか、お聞きしたい。
- ・ 今回の富山南警察署のように統合により管轄地域が広がると、各家庭を巡回連絡する警察官がより重要になってくるのだと思う。署が統廃合された場合に、巡回連絡をどのように捉えていくのか、どう対応していくのか、お聞きしたい。
- ・ 署を統合しても地域部門の人員は削減しない、交番の機能は維持するということを言ったほうが地域住民は安心する。
- ・ 警友会、青パト隊といった地域の力を総合して機能強化を図っていくことを示していけば、統合に対する不安も緩和されるのではないかと思う。
- ・ 統合再編はそれに要する様々なコストや県民に与える影響に鑑みると、単なる統合、庁舎の新築というものではあってはならず、県民に対して、これまでにない便益をもたらす未来志向のものであるべき。つまり、関係者においては現場活動、管理・マネジメント、行政サービスのあらゆる面にテクノロジー・ITを大いに活用して、再編以前よりも実効的で効率的な治安サービスを県民に提供するという覚悟を持って、人員配置や機能面において周到なデザインを構築することが求められると思う。
- ・ テクノロジー・ITの活用にあたっては、先行する民間の知恵と経験を取り込むという観点から、外部の専門家のコンサルティング、助言を得ることも検討すべき。